

## Ⅱ 事業の概要

### 法人

#### (理事会機能の充実)

少子化や経済情勢等の影響を受け、私立学校を取り巻く環境は年々厳しさを増している。このような状況下にあつて、学校法人共愛学園では、様々な課題に対して主体的、機動的に対応できるよう次の事業を行った。

#### 1 ガバナンスについて

本学園のガバナンスの在り方を探求するための一環として、役員、評議員及び事務局員等を対象に研修会を実施している。年2回の開催を目標にしており、当年度は次の研修会を実施した。

- ・ 2018年7月6日(金)

学童クラブの坂庭所長より演題「学童クラブの保育内容等」についてと、大川小学校校長(学園長)より演題「小学校の教育内容等」についての説明が行われた。いずれも運営は良好に推移していることの説明が行われた

- ・ 2019年3月4日(金)

大森大学学長を講師として演題「教育政策の動向」について、用意された資料に基づいて解説された。学長はいま起きていることとこれから起きることに分け、「Society5.0と100年時代のインパクト」から「柴山イニシヤティブ」まで、教育政策全般わたる課題について丁寧な解説を行った。

#### 2 中期経営計画について

2017年度末に、こども園から大学まで5部門のほか学童クラブを加えた6部門に係る、3ヶ年(2018～2020年度)の中期経営計画書を作成した。そして進捗状況の可視化を図るとともに計画の実質化を目標としたが、担当の部署がIRや急速浮上したプラットフォームの作業に追われたこともあり、計画の通りに進めることはできなかった。

#### 3 各部門の経営会議(委員会)の充実

「中学・高校財政問題検討委員会」、「小学校企画運営委員会」、「こども園企画運営委員会」、「学童クラブ企画運営委員会」をそれぞれ月1回開催し機能させている。いずれの委員会も理事長が議長となり、それぞれの部門の役職者と本部事務局職員が委員となって諸課題に対応し、生徒・園児の確保、財政の安定及び施設設備の充実などに一定の成果を上げている。

なお、大学の場合には、理事長は事務局長や総務課長とともに学長室会議(議長は学長)へ出席して意見を述べるほか、教授会、企画運営会議などにも参加している。

#### (創立130周年記念事業)

#### 1 学園小史の編さん

執筆委員会において編さん作業を進めた結果、9月22日の130周年記念式典・祝賀会までに発刊することができ、当日の参加者に配布することができた。編さんの内容は、第1部 共愛学園110年の歩み、第2部 共愛学園110年以降の歩み、第3部 共愛学園略年表、第4部 共愛学園の現況、第5部 座談会、編集後記によって構成されている。

## 2 小学校の開校設置

学園にとって長年の懸案事項であり、記念事業のメインであった小学校設置は、2016年4月1日に開校することができた。開校後の地域からの評価も高く、2019年度の応募者は入学定員の1.5倍の過去最高となった。現在の在籍者は1年60名、2年60名、3年52名、4年50名の計222名が楽しく元気に仲良く学んでいる。

## 3 中学・高校第二体育館（武道館）の建設

この第二体育館は、2016年3月に着工した後に工事は順調に進み、同年11月30日に竣工することができた。

現在は体育の正課お体育授業や剣道部を中心とする部活動のほか、学童クラブの剣道教室などでも使用されている。

## 4 大学事務棟の建設

大幅に遅れていた大学事務棟の建設は、2018年の秋に指名型のプロポーザルによってシラーカンス設計事務所（東京）が選定された後は、この事務所を中心にアドバイザーの倉田直道氏を加えた5号館建設委員会において作業を進めた結果、現在までに基本設計を終えることができた。

工期の短縮や工事費の圧縮を目的として、実施設計図の完成前に施工業者をある程度絞り込むため作業に入り、学園において選定した建設業者6社のプレゼンを5月15日に実施した。5月28日の本理事会において6社のうちから選定される見込みである。

今後のスケジュールは、設計事務所において選定された建設会社と打合せを行いつつ、8月までに実施設計図を完成させ、改めて複数の建設会社より見積を求めて最終的に業者を決定することになる。10月に着工し、約15ヶ月の工期で2020年12月に竣工の見込みとなっている。

なお、礼拝堂については、現在の1号館礼拝堂（1101教室）または3号館1階教室（3101教室）の改修により、新たな礼拝堂とする案が確定している。

### （130周年記念式典と祝賀会）

9月22日午前に中高生を中心とした在学生対象の第一部記念式典を、午後に学外の関係者を対象とした第二部式典を挙行了した。

第二部の式典には約1,000名の学園に連なる関係者が出席し、礼拝形式により厳粛に進められた。中学ハンドベル部による演奏、こども園園児と小学生による合唱や高校と大学の合同聖歌隊などが、出席者から高い評価を得るとともに好印象を与えた。

祝賀会は、約550名の参会者のもと会場を小学校に移して行われた。各界の参会者が親しく交歓した後歓びの余韻を残しつつ散会した。

### (学園創立 130 周年記念事業募金)

この募金は 2013 年 7 月に「130 周年記念事業募金委員会」を設けて開始され、2019 年 3 月末をもって組織としての募金活動は終了した。その後も個人的な協力者からの寄付を受け付けているが 2019 年 5 月 14 日現在における実績は 187,845 千円(達成率 94.0%)であり、各団体等の分担目標額と実績は次のとおりである。

(単位：千円)

	団体区分		目標額	実績額
1	学園同窓会	中高同窓会	30,000	37,404
2	中高ベタニア会	保護者会	40,000	25,208
3	賛助会		20,000	44,721
4	大学グレープバイン	大学同窓会	30,000	15,611
5	大学シオン会	大学保護者会	30,000	20,810
6	こども園カナの会	こども園保護者会	4,000	4,349
7	一般(教会、保育園保護者、 学童クラブ保護者、一般)		1,000	6,084
8	役員・教職員		15,000	14,561
9	学園バザーより		15,000	15,000
10	小学校保護者会		15,000	4,097
	計		200,000	187,845

### (小中接続会議)

この会議(座長 平田副学園長)は 2017 年度に設立され、積極的に作業を行った結果 2018 年度中に著しい進展を図ることができた。

会議に英語部会を設け、さらに小中一貫の英語、小学校英語、中学英語それぞれのカリキュラムを検討するための委員会を設けた。その結果、小中一貫の英語教育カリキュラムを完成させるなどして着実に成果を挙げている。このほか理数教育を推進するための「理数部会」、読解力の強化を図るべく「論理的読解力部会」を設けて小学と中学教育の接続及び質向上を図っている。

また、2019 年 3 月 5 日～7 日の 3 日間に小中接続会議の提案によって、ヤング・アメリカンズを実施した。アメリカからの団員 42 名のリーダーのもと、ここへ本学園の小学生 106 名、中学生 87 名、高校生 3 名、大学生 8 名の計 204 名が参加して、ミュージックショーを創作し演じた。

### (中・高接続会議)

中高接続会議を立ち上げた。メンバーは天川正副校長を座長として、飽田校長以下中高教職員のほか、法人側から理事長、学園長、副学園長が加わって定期的に会議を開催している。

これまでに ICT 環境の充実整備、中学棟トイレ改修工事、中学保健室の設置と養護教諭の配置、中高カウンセラー増員などについて提言を行い、これらの案件は 2018 年度と 2019 年度にかけて実現する見込みである。

2019 年度は、懸案の進学実績の向上を図るための高校カリキュラムの見直し、関連して外部講師の導入、クラブ活動指導の一部外部コーチ委託などそのほかの課題について、スピート感をもって検討を重ね実行する。

### (学園特別奨学費)

学園の各部門全体にまたがる兄弟姉妹や教職員子弟に係る就学支援金である。これまで該当者の所属する部門にて原則負担していたが、これであると特定の部門に負担が集中し片寄りも発生していたことから、これに係る奨学金を法人本部に統合移管し、部門間の負担均等化を図ったものである。

2018年度の補正予算からこの方式を採用した。

### (減価償却引当特定資産)

2018年度も各部門の経常収入(事業活動収入)2%相当を法人部門へ繰り入れ、減価償却引当特定引当資産として積み立てた。

2017年度よりこの引当制度は設けられたが、こども園園舎改築の補助金(国庫・一部市負担)が2018年度中に内定して、2019年度中に改築工事実施の運びとなったことから、ここからの積立金を一部財源として充てる。こども園にとっては大幅な負担軽減を図れることになり、この制度の意義も期待とおりのものとなった。

(単位:千円)

	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度	21年度	22年度	23年度
繰入額	47,000	52,800	52,800				
取崩額	0	0	152,600				
残高	47,000	99,800	0				

※ 2019年度の取り崩しはこども園園舎改築工事への一部充当。

## 大 学

### (入学の状況)

特待生制度や奨学金制度の充実、広報活動、募集活動の積極的な展開などにより、定員以上の学生を受入れることができた。

2018年度 コース別入学概況(入学定員255名、編入学定員5名)

	国際社会専攻				地域児童 教育専攻	計
	英 語	国 際	情報経営	人間文化		
応募者	185(0)名	251(4)名	194(1)名	132(0)名	97(0)名	859(5)名
合格者	99(0)	137(1)	109(1)	82(0)	63(0)	490(2)
入学者	60(0)	82(1)	80(1)	46(0)	26(0)	294(2)

( )内数値は編入学の内数

### (専任教員人事)

2017年度末の退任者はなかったが、2018年度に2名の新規採用(英語学、観光学関係)があったことから、専任教員は2名増の32名体制となった。

### (専任職員人事)

2017年度末に専任職員1名の退職、2018年度に1名の新規採用（総務課配属）があったので22名体制となった。

### (奨学金制度の見直し後の推移)

資格特待生を含む新しい奨学金制度へ2012年度から移行した。その新制度の基本的な概要は、資格特待生の適用を1年次のみ限定し、新たに「ともさくら奨学金」、「ワークスタディ奨学金」、「コース奨学金」などの奨学金制度を設けたことにある。

移行して4年目の2015年度からは、全学年に新制度の資格特待制度が適用され、資格特待生への奨学金支給額は減少する傾向にあったものの、定員増などにより学生数が増加し対象者が拡大されていることもあって、2016年度からは増額傾向にある。

年度別の資格特待生と奨学金（参考）

（単位：千円）

年 度	資格特待生	他の奨学金	計	記 事
2011年度決算	173,250	17,040	190,290	
2012年度決算	160,850	25,810	186,660	新制度へ移行
2013年度決算	146,940	30,920	177,870	
2014年度決算	97,440	48,080	145,520	
2015年度決算	64,762	49,934	114,696	
2016年度決算	74,804	50,957	125,761	
2017年度決算	85,163	57,756	142,919	
<b>2018年度決算</b>	<b>56,253</b>	<b>90,473</b>	<b>146,726</b>	
2019年度予算	83,000	67,684	150,684	

なお、新設された奨学金制度は次のとおり。

- a. 共愛学園ともさくら奨学金：経済的困難な学生を支援
- b. 学業奨励奨学金：各学年・各コースの成績最上位者に対する奨学金（原則20名）
- c. コース学業奨学金：各コースで定めた成績優秀者等に対する奨学金
- d. ワークスタディ奨学金：学内勤労に対する奨学金
- e. インターンシップ奨学金：学内で専門的業務に従事することで得られる奨学金
- f. プロジェクト支援奨学金：優秀なプロジェクトに対する奨学金
- g. その他これまでの奨学金の継続と内容の一部変更

### (地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（以下「COC+」）の推進 ※COC事業吸収）

2018年度は文部科学省に採択されたCOC+事業は、2014年度に採択されたCOC事業により強化した地域志向科目を充実させ、学生の地元意識を高め、地元定着を促すことを目的としており、本年度は事業4年目（5か年事業）である。地元定着率の10ポイントUPが最終目標であり、就業意識を高める各種インターンシップの充実もカリキュラムの特徴となっている。また、地元定着率を高めるためには自治体、企業等との関係強化も重要であり、協働機関コンソーシアム「C3PG」

を発足させ、協力体制を引いている。

本年度も地域人材育成に向けた授業科目、履修必修となっているキャリア支援系科目は順調に運営できている。更に本年度は新規に地元の観光情報の発信、観光プランの企画を社会人と共に実践することにより地域人としての自覚・行動力を身に付けることを目的とする「インバウンド人材育成プログラム」を開講した。

なお、本事業は高崎商科大学、上武大学、明治学院大学に補助金配分を行い、連携して事業に取り組んでいる。

※2014年度に採択された「地（知）の拠点整備事業（COC）」は本事業の一部に組込まれた

### （大学教育再生加速プログラム（以下「AP」）の推進）

2018年度はAP事業5年目（6か年事業）であり、前年度同様に学生の学修成果を記録・保存できるポートフォリオシステム（KCG）の実稼働として、教員による学生とのリフレクション等を行い、学修成果の可視化に努めた。AP事業担当の教職員による利用促進広報によりKCGへのアクセスは前年と比べ約3割伸びている。

また、前年度に引き続き、学生が学生に指導することにより共に学びあう「ライティングピアチューター制度」を運用し、主に新入生のレポート支援を行った。

### （地域貢献）

2008年度に設立された地域共生研究センターを核として、地域との共生（連携）を推進するため幅広い活動を行っている。

2018年度中の同センターの活動実績は次のとおり。

#### 【主催・共催事業】

- ・「きょうあい子育てひろば」を企画立案し、3シリーズの他、託児養成講座を実施。
- ・「しぶかわ子育てひろば」（渋川市保健福祉部こども課共催）ファースト・セカンド 各1回
- ・群馬現代史研究会（計3回実施）
- ・生涯学習講座
  - 公開講座
    - 群馬県民カレッジ連携講座「共に生きる社会を考える」
    - 共愛地域連携講座「上毛を学ぶ」考古・文学・歴史から学ぶ粕川
    - 「パソコンすてっぷあっぷ講座」（前橋市永明・城南公民館共催）等
  - ・テラコッタ教室 講師 本多 正直（本学教授）
  - ・「発達心理学」「人間を考える」「ジェンダー論」公開授業

#### 【地域連携事業】

##### ○ 委員等派遣

群馬県公立大学法人評価委員、公立大学法人前橋工科大学産官学連携コーディネーター業務選定審査委員会委員、伊勢崎市英語教育アドバイザーなど多数自治体等の委員として教職員を派遣した。

##### ○ 講師等派遣

前橋市中学校英語弁論大会の審査員、伊勢崎市男女共同参画職員研修、群馬県高校生イン

ターンシップ推進委員会などに多数教職員を派遣した。

○ 共同研究等

「韓国沿岸都市における地域住民の原風景と日本のイメージ」、「東上野町公民館文書研究—近代文書—」、「唇顎口蓋裂治療専門チームによる患児家族への早期からの迅速な心理学的支援実施のための実態調査」「大学生の地域愛着と友人のコミットメント、時間的展望との関係」の4件の研究が行われた。

○ 共催事業

自治体、公民館、社会教育施設、町内会、地域団体等々との共催事業を展開し、地域との連携を深めている。

【ボランティア派遣事業】

前橋市内小中学校、伊勢崎市内小中学校、群馬県青少年会館、自治体、NPO 団体、県内企業などへ学生ボランティア等を派遣している。

**(KYOAI GLOCAL HONORS)**

2018年4月「KYOAI GLOCAL HONORS」(専門性を更に高めた上級プログラム)を開始した。本カリキュラムは、1年次から4年次まで、共愛=共生の理念を軸とし、各コースの特徴的な学びをより専門的に習得できるプログラムとなっている。オナーズ生はHONORS BASE科目(実践英語・数的処理)で高度で実践的な学びを習得し、1年次の米国研修では世界に触れ、多角的な視点を獲得し、地域の課題や海外へつながる問題に挑戦している。

現在は、1期生(4名)・2期生(4名)が、それぞれの課題に取り組み、自身の学びを深めている。激動する国際社会についての見識と洞察力を持ちながら、国際化も含む地域社会を牽引できるGLOCALな人材を育成し、より高い志を持つ次世代のリーダーを育成することを目指していく。

**(高大接続・連携)**

2017年度より太田市立太田高等学校と「高大接続事業」本格的に開始し2年目を迎えた。本事業では、課題研究において「キャリア演習基礎」の取組を展開することを通して、高校生と大学生の交流を図り、県内大学の理解と魅力を深めるとともに、高校生のキャリア意識への興味関心を高めることを目的としている。キャリアデザインに関する講義やビジネスプランの検討を実施し、大学生との学びの機会を設け、高校生を対象に自分自身のキャリア(就職・進路)について考える学習や交流の機会を提供した。

また、2018年度は市立前橋高等学校との高大連携事業として「前橋市内フィールドワーク事業」を実施した。本学教員、大学生協力で、フィールドワークの手法やその分析方法についての事前レクチャーを行い、高校1年生全員が前橋市内商店街でのインタビュー調査を実施した。

**(施設設備の整備)**

① 2号館教室照明等改修工事

1994年に竣工した大学2号館1・2階の照明、図書館ブラインドが劣化したため、LED照明への改修・ブラインド交換を5,050千円で実施した。

② 2号館1階トイレ改修工事

障がいのある学生や LGBT の学生が利用可能なように 2 号館 1 階男子トイレを 3,348 千円で多目的トイレに改修した。

③ 自動ドア改修工事

1998 年に竣工した 3 号館自動ドアが老朽化したため、1,500 千円で改修した。

④ シンククライアントシステムリプレイス

学内 PC を統括するシンククライアントシステム老朽化のため、ソフトを 4,233 千円、サーバを 2,049 千円で更新した。

⑤ 既存サーバリプレイス

既存ドメインコントローラーサーバ、教職員用仮想サーバが老朽化したため、サーバ 2 台を 1,193 千円で更新した

(進路の状況)

・ 2018 年度卒業生の進路状況は次のとおり。

就職者	202 名
就職未定者	4
その他	13
進学者	3
計	222 名

就職率 98.1% (202/206)

・ 就職者の業種別進路と主な企業名

※ ( ) 内は就職者数

業種	人数	主な企業
サービス業	68	近畿日本ツーリスト、コシダカホールディングス、叙々苑、第一ほるもん、メモリード (2) NEXUS (5)、ベルハース 千葉ロッテマリーンズ NPO 法人教育支援協会北関東 ECC、エフェクトプラン (3)、ティルウィンド (3) サイエイ・インターナショナル金古南学童保育クラブ、 黒沢病院、坂田調剤三山黎明会、ぐんまこどもの国、 ひまわり福祉会 JA 赤城橋、JA 邑楽館林、JA 前橋市 (2)、 JA 太田市 JA 佐渡、エイジェック (2)、テクノプロ、 タカコー、エイム、K-WORK、ヤマニ熱工業、グンエイ、 ダスキんほづみ、セコム上信越、ジェイ・エス・エス、 セコム、グッド・クルーテンプロス、協同組合グラン、 企業名不明 (3)
官公庁	8	自衛隊、経済産業省、群馬県警察本部 (3)、榛東村役場 みどり市役所、神川町役場
教職員	15	群馬県公立小学校 (4)、群馬県公立中学校 (2) 埼玉県公立小学校 (3)、千葉県公立小学校 川崎市公立小学校関東学園大学附属高等学校 学校法人昌賢学園、学校法人片柳学園



		学校法人 NIPPON ACADEMY、
金融業	8	群馬銀行 (2) きらやか銀行、しのめ信用金庫 高崎信用金庫 (2)、桐生信用金庫 (2)
建設業	6	小林工業、佐藤建設工業、ミヤケン クシダ工業、CONY JAPAN、マチダコーポレーション
商社	11	群馬第一興商、リコージャパン (4) 太田物産、ナカムラ、 菊屋、光和、群馬県教科書販売、吉貞
情報通信業	16	両毛システムズ、ジーシーシー、高崎共同計算センター、 日本デジタル研究所、ナブアシスト、クライム、 アプロ、総合PR、コンピュータロン、プランニング、 トムシステム、ニーズウェル、Mamol (2)、ロクナナ、 アートランド
製造業	31	三益半導体工業、日本電産サーボ、小倉クラッチ (2) 太陽誘電、東亜工業、浅野 (2)、まるか食品 原田・ガトーフェスタ ハラダ、ウラノ ヨコオデイリーフーズ、アイエー・フーズ、栗食 上越印刷工業、若草印刷、アルフレッサファーマ 岡部工業、ユー・コーポレーション、イーケーエレベータ アピックヤマダ、しげる工業、マルナカ、国分プレス工業 千代田製作所 (3)、キリウ、群馬精工、トヨタ紡織九州 バンズ
流通・小売業	39	群馬トヨタ自動車 (4)、スズキ自販群馬 (3) 日産プリンス群馬販売 (2)、GN ホールディングス (3) 群馬トヨペット (3)、クスリのアオキ、クスリのマルエ ネッツトヨタ群馬、富士スバル、トヨタカローラ高崎 セキチュー、富士ゼロックス群馬、群馬ビーエス 海商水産、板垣、群馬日野自動車、高崎ターミナルビル きものブレイン、BANKAN わものや、エコラル、ピーアップ キャン、ジェムキャッスルゆきざき、両毛ヤクルト販売 ソニアプラン、ベイシア、フレッセイ (2)、ヤオコー
計	202名	

## 高 校

### (人事について)

#### 1. 退職、休職等

- ・2018年度末教諭1名定年延長修了退職 ⇒ 嘱託職員
- ・2018年度途中教諭1名定年延長途中退職
- ・2018年度末教諭1名早期退職

- ・ 2018 年度末教諭 1 名退職
- ・ 2018 年度末助教諭 2 名退職
- ・ 2018 年度末専任講師 1 名退職
- ・ 2018 年度末事務職員 1 名早期退職
- ・ 2018 年度末非常勤講師定年退職 ⇒ 嘱託職員
- ・ 2018 年度非常勤講師 4 名退職

## 2. 採用、復職、異動、昇任等

- ・ 専任講師 2 名の教諭への昇任
- ・ 専任講師 2 名の非常勤講師への任用替
- ・ 専任講師 4 名の採用
- ・ 非常勤講師 2 名の専任講師への任用替
- ・ 非常勤講師 5 名の採用
- ・ 高校教諭 3 名の中学への異動
- ・ 高校所教諭 1 名の中学への異動

### ・ 教 員

年度	専任教諭	専任講師	助教諭	左の計	非常勤講師
2014	45	17	—	62	25
2015	44	14	—	58	31
2016	41	17	1	59	29
2017	44	17	1	62	32
2018	44	16	1	61	26

### ・ 職 員

年度	専任職員	パート職員	学寮職員	計
2014	7	0	3	10
2015	7	0	3	10
2016	7	0	3	10
2017	7	1	3	11
2018	7	1	3	11

### (生徒確保と入学の状況)

2017 年度に比べ応募者が 200 名程減少し、定員の 360 名も割ってしまった 338 名の入学者となった。

#### 入学概況 (入学定員 360 名)

	普通科		英語科		計
	特進コース	進学コース	特進コース	進学コース	
定員	230 名		130 名		360 名

応募者	792 (44)		307 (33)		1,099 (77)
合格者	192 (6)	504 (37)	143 (13)	145 (20)	984 (76)
入学者	28 (6)	192 (37)	37 (13)	81 (20)	338 (76)

※ カッコ内は共愛中学出身者の内数。

### (特別奨学生制度の充実)

すべての入試に特別奨学生制度が適用されることを周知し、学業優秀者・スポーツ等優秀者の両面から意欲のある生徒を確保し、より活力のある学校づくりを目指した。

特別奨学生は定期的（学年末）に学業成績や部活動の様子など継続審査が行われ、年度の途中や年度末に資格を失う場合もある。

過去5年間の特別奨学生の入学実績は下記のとおりである。

	特別奨学生S		特別奨学生A		特別奨学生B		特別奨学生C		特別奨学生D		計
	学業	スポーツ等	学業	スポーツ等	学業	スポーツ等	学業	スポーツ等	学業	スポーツ等	
2014年度	2	—	4	12	1	—	8	10	2	—	39
2015年度	—	—	4	13	6	—	10	15	1	—	49
2016年度	—	—	7	13	3	—	14	9	7	—	53
2017年度	1	—	6	13	5	—	8	18	8	—	59
2018年度	3	—	7	18	11	—	14	10	18	—	81

### (進路の状況)

昨年度と比較すると4年生大学への進学者が1ポイント減少した。国立の難関校 お茶の水大学に合格者を出すことができた。

今後も、国公立大学や難関私立大学への合格者数を増やすこと（出口）が、中高生徒の確保（入口）に繋がるために、より一層学習指導や進学指導に力を入れていきたい。

区分	人数	合格先(国公立大学)
大学	291名 (68%)	お茶の水大(1)、群馬大(1)、新潟大(1)、千葉大(1)、群馬健康科学大(1)、群馬県立女子大(2)、高崎経済大(1)、都留文科大(1)、新潟県立大(1)、高知工科大(1)
短大	26(6%)	
専門学校	72(17%)	
留学予定	6	
就職	8	
浪人・その他	23	
計	426名	

### (施設・設備の充実)

### ① 弓道場新築工事

旧弓道場は変形のうえ狭い用地に建てられていたことから、部活動として使用するには向いていなかった。このためベタニア会からの施設拡充費(本部預かり)を充当して、ほとんど使われていなかった旧ソフトテニスコートへ新しい弓道場を建設した。

新弓道場は北風対策もされており、聖書の言葉から希虹館(きこうかん)と命名された。

### ② エアコン入替工事

昨年の酷暑の経験から最上階4階のエアコンの入替工事を実施した。氷蓄熱とのハイブリット式の機器だったため能力が低く、氷蓄熱を使用しない場合は教室を快適に冷やすことが出来なかった。今回の入替で他の階よりも能力の高いものと入れ替えた。

### ③ PCの入替工事

PC1教室のPC25台を入れ替えました。OSのWindows7のサポートが終了するためWindows10マシンへ切り替えました。これで学内の生徒用マシンは全て切り替えが済みました。

### ④ タブレットの追加導入

すでに、アップル社のiPad及びWindowsタブレットを導入していたが、今回はIT補助金を利用してWindowsタブレットを更に60台追加導入した。これで複数のクラスで同時利用が可能になった。

## 中 学

### (人事について)

退職、休職等

なし

採用、異動等

- ・ 中学教諭3名の高校への異動
- ・ 中学助教諭1名の高校への異動

年度	専任教諭	専任講師	助教諭	左の計	非常勤講師
2014	9	4	1	14	7
2015	9	4	1	14	10
2016	9	4	1	14	4
2017	7	7	1	15	3
2018	8	6	1	15	7

### (入学の状況)

2017度と比較すると15名の出願者増となり、入学者も15名増となった。対象年齢人口激減期にある中学は今後、定員確保が課題となる。

入学概況(入学定員100名)

	第1回入試		第2回	第3回	計
	推薦	一般	一般	一般	
応募者	49	54	22	9	134
合格者	46	42	13	7	108
入学者	46	39	11	7	103

### (進路の状況)

卒業生数 83 名中、共愛学園高校へ内部進学した生徒は 76 名、他校へ進学した生徒は 7 名である。

年度	卒業生数	内部進学者数	外部進学者数						計
			県内 国公立	県内 私立	県外 公立	県外 私立	海外 留学	その他	
2014	94	87	3	3	0	0	0	1	7
2015	104	97	3	1	0	3	0	0	7
2016	98	95	2	1	0	0	0	0	3
2017	69	62	5	1	0	0	0	1	7
2018	83	76	4	0	0	2	0	1	7

## 小学校

### (人事について)

専任教諭 14 名 (校長、教頭、養護を含む)、専任講師 1 名、非常勤講師 1 名、専任職員 3 名 (用務 2 名含む)、派遣職員 1 名、栄養士 1 名の職教職員体制である。

#### ・教員

年度	専任教諭	専任講師	兼務教員	左の計	非常勤講師
2016	6	1	3	10	1
2017	9	2	3	14	1
2018	14	1	0	15	1
2019					

※学校基本調査に基づき 小学校教諭免許のないタープストラ先生は専任講師とする。

#### ・職員

年度	専任職員	派遣職員	栄養士	計
2016	3	1	1	5
2017	3	1	1	5
2018	3	1	1	5
2019				

### (入試・入学の状況)

入試・入学状況は次のとおりである。

入学概況（入学定員 60 名）

	第1回	第2回	第3回	計
応募者	73	20	4	97
合格者	52	8	4	64
入学者	51	6	3	60

（施設・設備の充実）

- ① 砂場工事  
体育の授業などで必要性が高まったため校庭南東の場所に設置した。
- ② 屋外用廃棄物集積ボックス  
内部が分別のために機能的に仕切られた大型ボックスを校舎北側に設置した。
- ③ パイプオルガン専用加湿器  
冬季乾燥による本体へのダメージおよび、音ずれを防ぐため導入した。
- ④ 年次計画による執行（ホール用椅子、プロジェクター、給食室保温庫、跳び箱一式）  
進級による児童数増加に対応し、いずれも年次計画によって購入を実施した。
- ⑤ 家庭科室電気温水器  
アフタースクールの利用や、食器等洗浄時の使い勝手の向上を図るため。
- ⑥ 教務システムサーバ機  
学園の小中高3校での共用機が耐用年数を迎えたため、機材の更新を行った。

**こども園**

（園児数及び学級数）

5月1日現在(カッコは年度末)

年齢	園児数			学級数	職員数	備考
	3号認定児					
0歳	6 (22)			2	3 (7)	
1歳	25 (27)			2	6	
2歳	28 (29)			2	6	
合計	59 (78)					
	1号認定児	2号認定児	計			
満3	1 (4)		1 (4)			2歳児と合同
3歳	20 (21)	32 (31)	52 (52)	3	7	障害児担当1
4歳	18 (21)	40 (38)	58 (59)	2	4	
5歳	22 (20)	33 (35)	55 (55)	2	5	障害児担当1
合計	61 (66)	105 (104)	166 (170)	13	31 (35)	

総合計：224名(248名)

### (職員数)

旧幼稚園と保育園が一体となり誕生した、認定こども園の初年度職員数は次のとおりである。

年度	園長	副園長	主幹	保育教諭	看護師	栄養士	調理師	事務員他	合計
2016	1	1	1	36	2	1	3	1	46
2017	1	1	2	37	2	1	3	2	49
2018	1	1	2	38	3	1	3	3	52
2019	1	1	2	38	3	2	3	2	52

### (課外活動)

旧幼稚園で実施していた課外活動をこども園へ引き継いだものや新規にはじまったもの。申込者等の概要は次のとおり。

	バレエ教室	児童英語	後藤ゼミ 読み聞かせ	くるみクラブ	
				ママカフェ	くるみクラブ
申込者数	30名	60名	55名	延べ857名	延べ768名
開催日数	毎週月曜日	10日	4回	42日	42日
講師	梶川莉絵	本大学教員・学生	本大学教員・学生	石田・高田	

### (子育て支援センター共愛)

永明地区の子育て支援センターとして、地域の子育ての応援をしている。

月曜日～金曜日まで毎日開園し、マタニティーママから就学前の親子支援をしている。

今年度の活動は例年の子育て活動に加え、地域の保健師さんとの連携ができたことや永明公民館と子育てセンター共愛との共催で「防犯講座」の新しい講座の開拓ができたことは進歩です。

今年度の年間登録者 233 組 年間延べ参加者数 3820 名 (1ヶ月平均延べ参加者 320 名) で、永明地区のもならず、参加者は前橋全域に及んでいる。

### (施設設備の整備)

のぞみ棟園舎に未満児クラスが移動し、水周りの安全確保が課題になっていた。未満児が使用し誤って転んでも、安全確保するためのコーティング加工の塗装工事を3箇所行った。

のぞみ棟支援室を未満児室に使用する関係で、子供用トイレの一箇所を大人用トイレに改修した。

このほか、従来より使用していた栄養計算ソフトの保守期間が切れたことから、新・栄養計算システムを導入した。

## 学童クラブ

### (児童の確保)

2018年度は開所して8年目にあたる。人材や施設など総合学園として、共愛学園の特色を活かした保育活動を展開し、地域社会からも高い評価が得て児童は順調に確保されている。

	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
児童数	17名	25名	33名	37名	39名	39名	39名	39名

**(施設設備の整備)**

家屋取得時に引き継いだエアコンが老朽化し、機能が著しく劣化していたことから、容量の大きい機種に入れ替え環境整備を図った。

そのほかの大きな備品の取得や修繕等はなかった。